

○聖書が描く“幸せな歩みの四つの特徴”

1. _____(1a)

▶「幸いなことよ」

※詩篇32:1-2

「幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、その靈に欺きのない人は。」

※詩篇119:1-2

「幸いなことよ。全き道を行く人々、主のみおしえによって歩む人々。幸いなことよ。主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々。」

※詩篇146:5

「幸いなことよ。ヤコブの神を助けとし、その神、主に望みを置く者は。」

※ピリピ4:11,13

「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」

「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」

※ヘブル13:5-6

「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましょう。」

2. _____(1b)

▶「悪者のはかりごとによらず」

悪者…神様を憎んでいる人

はかりごと…アドバイスや助言

▶「罪人の道に立たず」

罪人…神様に従おうとしない人

道…その人の生き方

▶「あざける者の座に着かなかった」

あざける者…自分が神様を拒むだけでなく、正しく歩もうとする人を馬鹿にする人

座に着く…一緒にいて居心地の良い状態

※1ヨハネ2:15

「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。」

※創世記3:1

「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

3. _____(2-3)

▶「喜びとし」

※詩篇119:103

「あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。」

※1ペテロ2:2

「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粹な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」

※2テモテ3:16-17

「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」

4. _____(4-6)

▶「知っておられる」

※創世記4:1

「人は、その妻エバを知った。彼女はみごもってカインを産み…」

※出エジプト記2:23-25

「それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエル人は労役にうめき、わめいた。彼らの労役の叫びは神に届いた。神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。神はイスラエル人をご覧になった。神はみこころを留められた。」

「『主は正しい者の道を知っておられる。』言い換えれば、主は絶えずその歩みを見守っておられます。たとえその道がしばしば霧や暗闇の中にあるように見えても、主はそれを知っておられます。たとえ苦しみの雲や嵐の中にあっても、主はそれを理解しておられます。主は私たちの髪の毛さえ数えておられます。どんな災いも、主の許しなしに私たちに及ぶことはありません。主が私の歩む道を知っておられるのです。』(チャールズ・スポルジョン)